

令和6年石灰石鉱山における 災害の発生状況について(暦年確報)

石灰石鉱業協会 保安部

1. 罹災者数

令和6年石灰石鉱山における災害状況は罹災者数7名(重傷5名, 軽傷2名), 全鉱種・全鉱山(以下, 「全鉱山」という。)は罹災者数14名(重傷10名, 軽傷4名)となり, 石灰石鉱山・全鉱山ともに3年ぶりに死亡者

ゼロを達成するとともに, 罹災者数は前年と比較し石灰石鉱山では10名減, 全鉱山では11名減少し, 石灰石鉱山ではこれまでで最も優良な保安成績となった。引き続き, 死亡災害及び重傷災害の撲滅を目指すことが重要である。

令和6年鉱山別災害一覧(軽傷以上)

令和7年3月末現在

No	発生		県別	災害種類	り災程度	職 種	年齢	直・請	坑内・外	累計		
	月	日								人数	災害率	強度率
1	3	2	青森	運搬装置(コンベア)	重傷★	運転班パトロール員	38	直轄	坑外	1	8.48	0.05
2	3	27	岩手	運搬装置(コンベア)	重傷★	プラント作業員	22	直轄	坑外	2		
3	3	28	岡山	墜落	重傷★	製造担当員	62	直轄	坑外	3		
4	9	9	北海道	転倒	軽傷	採鉱係員	21	直轄	坑外	4	3.70	0.03
5	10	10	大分	運搬装置 (車両系鉱山機械)	重傷★	坑道掘進作業員	49	請負	坑内	5	4.13	0.03
6	11	28	栃木	機械	軽傷	工作物等加工作業員	65	請負	坑外	6	4.50	0.04
7	12	25	広島	転倒	重傷★	マテハン員 (片付け・清掃作業)	58	直轄	坑外	7	4.82	0.04

注: ①★: 休業4週以上 ②災害率: 百万人当り災害率 ③強度率: 稼働延べ時間当たり損失日数

参考: 軽傷以上罹災者数暦年対比

石灰石鉱山					全鉱種・全鉱山				
年 別	死 亡	重 傷	軽 傷	合 計	年 別	死 亡	重 傷	軽 傷	合 計
令和6年	0	5	2	7	令和6年	0	10	4	14
5年	1	13	3	17	令和5年	2	18	5	25
4年	1	4	3	8	4年	1	8	5	14
3年	0	11	0	11	3年	0	19	3	22
2年	1	13	2	16	2年	1	14	4	19
元年	1	13	4	18	元年	2	16	6	24
平成30年	0	10	5	15	平成30年	0	20	6	26

注: 鉱山保安統計月報及び年報他

2. 災害事由別等

災害事由別で見ると、石灰石鉱山では「運搬装置(コンベア)」2名、「転倒」2名、「墜落」、運搬装置(車両系鉱山機械)及び機械各1名、全鉱山では「運搬装置(コンベア)」5名、「転倒」4名、「墜落」、「運搬装置(車両系鉱山機械)」、「機械」、「取扱中の器材鉱物」及び「その他」各1名であった。

石灰石鉱山における災害では、コンベアや機械の回転部に誤って手を巻込まれ罹災する災害が昨年に続き多く発生するとともに、起砕岩に躓き転倒したり、ステップを踏み外して墜落し罹災したほか、後退する重機の履帯に轢かれ罹災するなどした。

こうした災害の背景には、安全対策が不十分であったり、作業員の高齢化や経験年数、危険軽視による不安全行為など災害を誘発する要因が複雑に関係していると考えられ、きめ細かな災害防止対策が求められる。

<令和6年事由別罹災者数>

事 由	石灰石鉱山	全鉱種・全鉱山
運搬装置(コンベア)	2	5
転倒	2	4
墜落	1	1
運搬装置(車両系鉱山機械)	1	1
機械	1	1
取扱中の器材鉱物	0	1
その他	0	1
合 計	7	14

3. その他(罹災者を伴わない災害)

罹災者を伴わない災害では、重機、アーク溶接作業、雷等に起因した火災や発破による飛石災害が多く発生した。また、発破待避途中に落雷により起爆するといった事故が発生しており、改めて同種災害の再発防止に注意が求められる。

<罹災者を伴わない災害件数>

事 由	石灰石鉱山	全鉱種・全鉱山
火災	3	5
発破又は火薬類(飛石)	3	4
発破又は火薬類(その他)	1	1
運搬装置(その他)	1	1

注：鉱害関係を除く。

最後に当協会保安委員会では、経済産業省から水平展開された災害事例について、都度検討を行うとともに、会員鉱山から提供された「保安改善事例」を紹介しており、これらの保安改善事例は協会誌で会員向けに情報を提供している。この他、協会ホームページでは経済産業省が取りまとめた「鉱山の安全」に関するサイトにリンクをさせるとともに、会員鉱山へのサービスとして保安DVDの貸し出し事業を行っているので、更なる保安の向上に向けて是非ご活用いただければ幸いである。